



オオサンショウウオの  
見つかった坂折川



前と言われているので、少なくとも四国の一部には元々本州とは独立したオオサンショウウオが自然分布していたことを示唆するものと言える。

越知町では、1995年(平成7年)に上述の坂折川で、翌年に仁淀川本流で、共に体長が1メートルを超える大型のオオサンショウウオが見つかっており、今回が3例目である。

オオサンショウウオは、現存する両生類の中で世界最大種で、最大1メートル60センチのものが知られている。ただ、最近の環境条件の悪化により、年々その数が減少し、体長が1メートルを超える個体が見つかる例は全国的に非常に珍しくなってきた。かつてはヨーロッパにもいたが、現在では日本と中国と北アメリカにしか生息していない。

越知町内には、この他、小型のサンショウウオも何ヶ所かで見ついている。一般に、サンショウウオは河川上流の清流に棲んでいることから、水がきれいかなどかの環境の一つのバロメーターになっている。サンショウウオの棲める自然環境は人間にとっても優しい環境であり、この環境をいつまでも守り、後世に残していくことが大切である。

## 体長110cm、県下最大の オオサンショウウオ見つかる

5月3日(木)、越知町内の清流仁淀川の支流・坂折川で、体長1メートル10センチの県下最大のオオサンショウウオ(国の特別天然記念物)が見つかった。

オオサンショウウオは、古い体型をもった両生類で、“生きている化石”または“生きた化石”と呼ばれ、ヨーロッパの約3800万年前の地層からすでに化石として見つっている。四国では、愛媛県喜多郡肱川町数水洞穴の洞穴堆積物〔リズーウルム間氷期：約12～15万年前〕から化石が報告されている。四国が氷河期に本州と陸続きになったのが約7万年

## 植物とともに蝶類も豊富な横倉山

高橋 厚彦

横倉山は標高がわずかに774mではあるが、石灰岩や蛇紋岩を初めいろんな種類の岩石からなりたっていて、地質構造も複雑であるため、生育している植物の種類が豊富なことでは、全国的にも希に見る特色のある山であるといわれている。

昆虫類の多くは、植物と密接な関係をもっているため、横倉山の昆虫相もまた複雑であろうことが想像される。

特に、横倉山の蝶類については、高知県の昆虫の先学者である、佐川町黒岩出身の黒岩恒を初めとし、橋本清美、岡本啓、竹東正、森沢正、岡部正明、中村重久諸氏等による断片的な報告はあるが、「横倉山の蝶類」としてまとめられたものはない。そこで、この山の蝶類について、岡部・中村(1957)や、日本鱗翅学会四国支部(1979)等を参考に、近年の知見をまとめておくことにした。

高知県に分布が確認されている蝶類は、迷蝶を

除くと111種で、そのうち横倉山で生息するものは、セセリチョウ科6種、アゲハチョウ科10種、シロチョウ科6種、シジミチョウ科10種、ウラギンシジミ科1種、テングチョウ科1種、マダラチョウ科1種、タテハチョウ科19種、ジャノメチョウ科9種で、計63種という実に半数



〈オオムラサキ〉  
上:雄 下:雌

以上の種が数えられる。

以下に、これまで横倉山で確認されている代表的な蝶についての報告とその生態について簡単に述べる。

### ■オオムラサキ

岡部・中村(1957)に、「現在までに報告された主な産地は長岡郡大豊村、香美郡物部村、土佐郡

土佐山村、吾川郡吾北村・池川町、高岡郡横倉山などである。」との記載がある。

本種は、日本産の蝶を代表する国蝶にも選ばれ、特に、雄においては輝きを発する、紫の幻色光の豪華な美しさ、梢上はるかに滑翔する姿はひとしお壮観でもある。

産卵は主に7月に行われ、7月下旬にはすでに1令幼虫を見る。10月頃には3令幼虫に達して褐色の越冬幼虫となり、樹を下って根際の落葉下面に静止して冬を越す。4月になって新芽が出始めると、再び樹上に帰り摂食して蛹化する。

年1回の発生で、エノキやエゾエノキを食餌植物とし、その小枝に数個~数十個の卵を産付する。

### ■アサギマダラ

南方系の蝶で、本種のように北部の寒冷地にまで生息するものはきわめて珍しく、他にあまり例を見ない。飛び方はゆるやかで、ほとんど翅を開いたまま流れるように花を訪れるが、一度採らえそこなうと、天上はるかに舞い上がって姿を消してしまう。

アサギマダラは、春に南から北へ、秋に北から南へと世代を繰り返しながら、「渡り」をしているらしいと言われている。1981年春に種子島で翅に印を付けて放されたアサギマダラが、およそ2ヶ月後に福島県で採集され、同じ年の秋、鹿児島で放されたものが12日後に奄美大島で採集されている。

年1回の発生で、カモメズル・キジョランなどが食餌植物である。

### ■イシガケチョウ

亜熱帯の蝶で、インドから台湾・沖縄を経て、わが国の半ばに定住する本種は、北上する蝶類中最も北に生息地を延ばしているものの一つである。本種の飛び方は滑翔と翅ばたきを繰り返し、飛び去っては幾度も同一場所へ舞い戻り、喬木の梢上や路上、岩石上、湿地などに翅を開いたまま展翅された標本のように静止する。驚いて飛び立ち翅



(アサギマダラ)雄

を開いたまま葉裏に密着し、姿を隠す習性が見られる。

暖地では年4回の発生で、イヌビワ・イチジクなどが食餌植物である。

### ■ウスバシロチョウ

アゲハチョウ科ではあるが姿も色彩も、種名のように「シロチョウ科」のものによく似た種類である。

氷河時代の遺存種(“生きている化石”)といわれるこの蝶は、北海道では平地に、南にいくにしたがって高地に生息する。四国では局地的に山地に分布しているが、九州では採集された記録がない。

モンシロチョウにも似て、フワフワとゆるやかにとび、路傍の花に翅を開いたまま静止する。

四国の山地では5月の月上旬頃に姿を見せる。年1回の発生で、幼虫はムラサキケマンの葉を食する。

### ■アカシジミ

本種は6~7月クリの花が咲く頃出現し、その花上でよく見かける。昼間活動することはなく、飛翔するのは曇天の時や、晴天の日の午後6時頃から日没前後に及ぶ。



(アカシジミ)左:雄 右:雌

年1回の発生で、四国ではクスギ、コナラ・ミズナラなどが食餌植物として確認されている。

### ■キリシマミドリシジミ

本種は1921年7月15日に鹿児島県の霧島山において、初めて発見されたもので、雄の翅の表は金色を帯びた緑色で、裏面は銀白色である。

年1回の発生で、成虫は7月下旬から8月上旬に見られ、雄は午前9時から午後2時頃まで活動し、樹木の梢に止まり、数頭の追飛が見られる。雌は林間を飛び、あまり高くないところに止まる。

四国ではアカガシ・ツクバネガシ・ウラジロガシなどが食餌植物として確認されている。

日本鱗翅学会四国支部(1979)には“成虫が相当数採集されたのは横倉山のみで、他では現在までのところ少数しか採集されていない。”との記述も見られ、「横倉山 3. V, 1973 羽化、竹東(飼)、横倉山 20. VI, 1963 森沢正氏(採)、横倉山 28. V, 1968 羽化、竹東(飼)」など、横倉山でキリシマミドリシジミの卵を採集し、その後飼育して成虫に羽化させたものや、成虫を採集した記録も記載されている。



(キリシマミドリシジミ)  
上:雄 下:雌

横倉山は、以上のように蝶類の数も多く、県下的に珍しい種類も見られ、植物とともに蝶類もまた特色のある山である。国蝶オオムラサキについては、榎の大木も少なくなり、ここ30~40年間生息が確認されていない。

(参考文献)

岡部正明・中村重久(1957):四国南部の蝶。げんせい, Vol. VI, Nos. 1/2

日本鱗翅学会四国支部(1979):四国の蝶。日本鱗翅学会四国支部, 松山, 229P

(たかはしあつひこ/横倉山自然の森博物館副館長)

〈夏休み特別企画展〉■2001年7月29日(日)ー9月2日(日)

**世界の昆虫展** —その美しさとふしぎ—

## “土佐の三奇石”——古代サンゴ

安井 敏夫

高知県を代表する岩石の一つに、“古代サンゴ”（“山サンゴ”ともいう）と呼ばれるものがある。高知市の北方の土佐山村桑尾地域から産する、今から約2億5000万年前の古生代ペルム紀前期の四射サンゴ（絶滅種）の化石のことである。

地元の地質研究者・橋本清美氏が1940年（昭和15年）に見出し、翌41年学会に発表された。しかし、その後の研究によって属名が二度変わり、最終的にデュラミナ・ハシモトイ（*Durhamina hashimotoi* (NAGAO and MINATO)）と命名された学術的に有名な化石サンゴである。

“古代サンゴ”は、地質学的には秩父累帯北帯の白木谷層群中の凝灰質石灰岩中に胚胎され、最初岐阜県の石材業者が“大理石（石灰岩）”を採掘して化石サンゴの存在に気付いたようである。サンゴの母岩の地が暗赤色を呈し、サンゴ自体も赤く染まっています磨くと非常に美しく、帯留・根



“古代サンゴ”の原石  
（寄贈：池 清幸氏）

付け・指輪・ペンダント・ブローチ・ネクタイピン・カフスポタン・ループタイなどに加工され、かつては高知県の代表的な土産品として観光客に人気が高かったようである。昭和53年の第29回全国植樹祭に来高された昭和天皇が、皇后様へのお土産として“古代サンゴ”のブローチをお買い上げになられたそうである。現在でも地元の業者が細々と加工を続けており、現世の“土佐サンゴ”と共に土産物屋の店頭を賑わせている。ちなみに、昭和30年代の“石ブーム”でサンゴの原石は採り尽されてしまっており現在は採集できない。以前は土佐の風物詩「日曜市」でもよく“古代サンゴ”の磨かれた原石が売られているのを見かけたが、最近あまり目に留まらなくなってしまった。

“古代サンゴ”は、「菊花石」、「梅林石」と共に、“土佐の三奇石”の一つに挙げられている。（やすい としお／横倉山自然の森博物館副館長兼学芸員）



“古代サンゴ”の加工品  
（資料提供：佐藤幸次氏）

### 企画展予告

◆平成13年9月23日（日）～10月21日（日）  
「土佐のサンゴ——その造形美と匠——」

高知県は、日本最古の4億年前の化石造礁サンゴから、現世のサンゴ礁まで実に幅広くサン

ゴが見られる。また、“土佐サンゴ”の美しさとそれを用いたサンゴの加工技術は世界的にみても第一級のものである。

化石サンゴと現世サンゴ細工を通じて、自然の織り成す造形美と匠の美を紹介する。



越知町柴尾にて

## 里山の生き物たちに子どもたちの歓声

——千石正一先生の「講演会」・「生き物観察会」——

5月27日(日)午後、テレビ番組「どうぶつ奇想天外!」でおなじみの千石正一先生をお招きして講演会「日本の爬虫・両生類について」を開催した。

越知町民会館大ホールにおいて、300名余りの町内外の聴衆を前に、主として「爬虫・両生類の分布と進化」について話が進められた。オオサンショウウオ(巻頭ページ参照)についても触れ、講演終了後には、子供たちや一般客から「四国のオオサンショウウオは自然分布か?」「日本で未発見の爬虫類や両生類は?」「マムジは殺すべきか?」などの活発な質問、意見交換がなされた。千石先生の言葉の中で特に印象的だったのは、「生き物たちとの関係を断ち切っていくと、結局人間自らの首を締めてしまうことになるから、いろんな生き物と共存できる世界を保持することが結局人間のためである」という考え方であった。野生動物を愛し、その調査・保護について真剣に取り組んでいる千石先生の体験談を交えたお話を聞くことができ、大変有意義な講演会となった。

一方、会場内には高知市の「わんぱくこうち

アニマルランド」で飼育中のオオサンショウウオも展示され、グロテスクでいて何となく愛敬のある姿にみんな不思議そうに見入っていた。

また午前中には、越知町内の「川と山・ふるさと夢の会」のメンバーの皆さんが休耕田を借りて造った「めだか池」や湿地で、約120名<sup>\*</sup>の家族連れなどが参加しカエル・イモリ・カメ・ヘビ・メダカなどさまざまな野生生物の観察を行った。生き物たちが現われる度にあちこちで歓声が上がリ、みな熱心に千石先生の解説に聞き入っていた。特に子どもたちは、千石先生に勧められて恐る恐るヘビに触れてみるなど、今までの両生類や爬虫類に対する考え方や見方が変わったように思えた。

今回の講演会・観察会をとおして、清流にしか棲まないオオサンショウウオや、身近な生き物たちを同じ生態系の一員としてとらえ、その存在の意味するものが何であるのかを考えるきっかけになったのではないだろうか。

\*参加希望者が多く、残念ながら50名ほどの方には参加をお断りせざるを得ませんでした。この場をお借りしてお詫び致します。

友の会だより

横倉山自然の森博物館友の会「フォレスト・クラブ」は、博物館の展示や教育活動を通じて、横倉山の自然史に関する知識や関心を高め、メンバー相互の親睦を図ることを主な目的として平成10年10月に発足しました。横倉山

はもちろん自然を愛するみなさんが加入され、平成12年度の会員数は約300人となっています。発足3年目を迎えた「フォレスト・クラブ」の平成12年度の活動を紹介します。



横倉山ツツジ観察会 ―修験の道コース―('00/4/23)



夏休み博物館教室【化石採集会】('00/8/13, 8/20)



広島県芸北町研修旅行('00/6/3,4)



クリスマスリース教室('00/12/16)



21世紀初日の出を見る会('01/1/1)



安徳天皇・平家伝説史跡探訪('00/10/9)



星の観察会('01/2/10, 2/17)

“眺めのいいテラス” 3階テラスへテーブルと椅子を置きました。



来館者のアンケートの中に、「3階からの眺めがすばらしいので、カフェテラスのようなものがあれば…」という要望が多く、その手始めとして3階テラスに、テーブルと椅子を3組設置しました。これまでは、食事をご遠慮していただいておりますが、お弁当などを持ち込んでいただいても結構ですので、ぜひご利用いただきたいと思っております。なお、コーヒー・ジュース類は2階ロビーに自動販売機(紙コップ)を置いてありますので、あわせてご利用ください。将来的には、さらに充実させていきたいと考えております。

## 横倉山三二歳時記

### ■フクリンササユリ

*Lilium var. albomarginatum* Makino

ユリ科の多年草。高さ：50～100センチで、笹に似た葉をつける「ササユリ」の中で、葉の周辺に白い縁どりがあるものを言う。牧野富太郎博士の命名で、和名は「覆輪笹百合」。花期は6月中下旬で、ほっそりとした茎に淡いピンク色の花を付け、ユリの仲間では最も上品だと言われている。以前は越知町内でもいたるところで見られたが、最近ではめっきり少なくなりました。



## 博物館日誌(抄) (01.4~02.3)

### ■墨・北古味可葉展「萌の舟—ココロノカタチ—」 (5月8日～6月10日)

土佐手すき和紙を素材に描かれた二本の直線と曲線を組み合わせた「ココロノカタチ作品群」、そして、それに「あかり」が融合した「萌の舟」の立体作品を通じて地域の文化にふれてもらうことをねらいとする。

「ココロノカタチ」では、他者とのかわりなしでは生きていけない人間の「ココロ」を描き、「萌の舟」では、生き物が萌えいずる様子が描かれている。

企画展のオープニングセレモニーとして、地元越知中学校吹奏楽部とOBによる月夜の演奏会「満月の宴」が、3F展望ロビーにおいてほのかな「あかり」をバックに行われ、幻想的な雰囲気を醸し出していた。



### [平成13年度]

○平成13年2月25日(日)～3月25日(日)

写真展「美しい宇宙」

○5月8日(火)～6月10日(日) 墨・北古味可葉展

○5月27日(日) 千石正一先生講演会・生き物観察会

●7月28日(土)～9月2日(日) 世界の昆虫展

●7月29日(日) 夏休み博物館教室(昆虫)：「カブトムシの観察・採集」

●8月5日(日) 夏休み博物館教室(植物)：「植物の観察とシダを使っでの遊び」

●8月18日(土)・19日(日)(1泊)

夏休み博物館教室(化石)：「天狗高原の化石観察と天体観察」(※化石採集は構わない場所)

●9月23日(日)～10月21日(日) 土佐のサンゴ展

● 同 上 石彫展

### ◆イベント

○4月1日(日) 化石採集会：「白亜紀植物化石」

○4月29日(日) 横倉山ツツジ観察会(中止)

○6月16日(土) 友の会総会

○11月 キノコ探検隊：「キノコの観察と試食会」

○12月 リース教室[未定]

## スクップの声、声、声

(片岡)梅雨が明けたら夏の星座達の出番。頭上には雄大な天の川に夏の大三角。南天にはさそり座のアンタレスと赤さを競っている火星。さあ、あなたもちょっと暗い郊外へ出て夜空を見上げてみませんか。

(高橋)横倉山でも、フクリンササユリの花が咲きはじめ、その美しさには一服の清涼感をおぼえます。林の中からは、朝夕どこからともなく「こっち来い。こっち来い」というコジュケイの鳴き声が聞かれ、あたかも博物館の案内役をかって出ているかのようです。

(安井)横倉山に自生する牧野博士ゆかりの絶滅に瀕している植物が、間違っても人間の所為でこの世から消えてくならないように、みんなで暖かく見守り、確実に次の世代まで受け継いで行きたいものである。

(小田)「おっー！」と興奮して叫んでしまいました。久しぶりに横倉山の森で「ニホンリス」を見かけた時のことで

す。横倉山の麓を流れる仁淀川では、「オオサンショウウオ」が見つかりました。ここには野生があります。

(西森)博物館3階にテーブルと椅子を設置しました。気の合う仲間、家族と一緒に緑の中の博物館でお弁当を食べるのもいいものと思いませんか？博物館の新しい試みです。

(千頭)休日の朝、どこかで聞いた声で目覚め、大慌てで博物館に連絡しました。館内のアカガシ原生林ジオラマの「幻の鳥」セイロチョウの鳴き声とそっくりだったからです。駆けつけた係長が声のほうに向かう頃には聞こえなくなっていました。はく製だけでなく、生きた姿を是非見たいものです。

(浜満)愛犬・クウと一緒に毎日仁淀川へ散歩に行っています。コケを食べている蟹の親子、仲良く並んで泳ぐ五羽の鴨、夕陽にキラキラ輝く水面、そして、ふと見上げれば横倉山。私の好きな越知の風景です。



# 募集

## 不思議の森を撮ろう! 横倉山フォトコンテスト

横倉山には4億年以上の歴史があり、太古の自然や平家伝説なども残り、山全体が歴史とロマンに満ちています。また、山自体の神秘的な姿に加え植生が豊富なため、四季を通じて実にさまざまな姿を見せてくれます。

横倉山自然の森博物館では、そんな魅力的な横倉山のさまざまな姿やそこに生息、自生するいろんな動物や植物、史跡などを対象とした写真を募集します。

なお、受賞作品は博物館において写真展で展示公開し、一部は、平成14年秋の「こうち団体」の「スポーツ芸術」でも紹介します。

- 募 集 要 項**
- △テマ：「横倉山ーその素顔と自然の営みー」
  - △応募資格：年齢、職業（プロ、アマ）等は問いません。
  - △応募方法
    - 四つ切以上でパネルにしたもの。カラー、モノクロは問いません。
    - 1人何点でも応募可能。
    - 応募写真の裏面に1.作品のタイトル 2.住所 3.氏名 4.年齢 5.性別 6.職業 7.電話番号 8.撮影年月日 9.撮影場所を明記してください。
    - 未発表のもので、応募する一年以内に撮影したものに限りま。
    - 応募作品は、原則として返却いたしません。
    - 応募作品のネガ等は、審査発表まで保存しておいてください。
    - 入賞作品の著作権は、横倉山自然の森博物館に帰属します。
  - △応募先：〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737-12  
越知町立横倉山自然の森博物館「横倉山フォトコンテスト」係
  - △応募締切：平成14年1月31日(木)
  - △発表：高知新聞紙上、越知町広報誌上 他
  - △審査員：岩崎 勇(写真家、県展無鑑査・審査員)  
吉岡珍正(越知町長)・片岡重教(館長・教育長)・他2名：計5名
  - △賞金 他：
 

金賞1名	賞金20万円
銀賞1名	賞金10万円
銅賞1名	賞金5万円
審査員特別賞2名	賞金2万円×2名
入選20名	記念品
参加賞	

高知県越知町立  
**横倉山**  
自然の森博物館

THE YOKOGAWAMA  
NATURAL FOREST  
MUSEUM INC.

〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737番地12  
TEL.0889(26)1060 FAX.0889(26)0620

- 開館時間：午前9時より午後5時まで  
最終入館は午後4時30分
- 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)  
12月29日から翌年の1月3日まで
- 入館料：大人.....500円 (各20名以上の団体は100円お断り)  
高校・大学生.....400円  
小・中学生.....200円
- 越知への交通
 

高知	バス約30分	佐川	バス約15分	越知
高知	バス約30分	高知	バス約30分	越知
高知	バス約30分	高知	バス約30分	越知
高知	バス約30分	高知	バス約30分	越知

